

税金と国際社会の奇跡

学校法人尚学学園沖縄尚学高等学校附属中学校 3年 城間 心敬

私は最近「持続可能な開発目標」という言葉をよく耳にします。これは、世界にある課題を世界全体で解決しようと掲げられた十七個の目標のことです。私はこの目標の一番最後に掲げられた「パートナーシップで目標を達成しよう」というものに興味をもち、調べてみることにしました。

すると、そこで「政府開発援助」という活動を見つけました。国際社会の一員として平和を願い、飢餓や貧困に苦しむ発展途上国の援助と課題解決などを行っている活動です。私は、とても素敵な活動だと思い詳しく調べてみると、国民が払っている「税金」が使われていることが分かりました。

国の歳出額の内訳のうち、〇. 五%にあたるおよそ五千八百億円分が「経済協力費」というものに使われています。この中心となって活動しているのが政府開発援助で、主にアジアやアフリカなどの発展途上国の経済的・社会的開発、福祉の向上に役立つために資金や技術の提供などを行うそうです。私は、税金を日本だけでなく、海外の発展途上国の支援にも使っているとは知りませんでした。このことに驚くと同時に、私は、税金をきちんと納めることは、みんなが住む町や公共サービスが充実したり、発展途上国の人々を救うことにつながったりするので素晴らしい義務だと思いました。

大人が払う所得税や住民税、大人だけでなく私達子供も払う消費税など色々な税金がありますが、それらを払うことで、警察や消防が無料で利用できたり、道路や公園、学校などが整備されたりして、地域や国全体が、きれいで便利で安心な社会になります。これを日本だけでなく、政府開発援助などで海外にも広めていくことによって、世界中がきれいで便利で安心な社会に少しずつ近づくことができると思います。これらをずっと続けていくことで、最初に述べた十七個の「持続可能な開発目標」の一番最後に掲げられる「パートナーシップで目標を達成しよう」という最終的なゴールに達することができるのではないかと私は思います。

中学生の私が払える税金といたら消費税くらいしかないかもしれませんが、ほんの少しでも、私が納めた税金で発展途上国の人々の暮らしや命を救い、幸せになる人がいるのなら、それはとても嬉しく、誇りに思います。

社会に出で、大人になったとき、税金を正しく納めることができるように、今は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめて無償で支給された教科書や学校で一生懸命勉強をしようと思います。

納税者としての義務を果たす立派な大人になり、世界中の困っている人や次の世代の力になって、きれいで便利で安心な国際社会を実現できるように、税金に対して更に関心をもっていきたいです。